

能代の色とりどりの魅力

まあるいクッキーに込めて。

バスケットの産新

ピンクに黄色に緑色。彩り豊かでかわいらしい形が特徴の新スイーツ。地域おこし協力隊の長嶺薫さんが、バスケットの街のしりを盛り上げるお土産を目指して制作中のスノーボールクッキーです。お土産のイメージが形になるまでは試行錯誤だったそうです。誕生秘話や味のこだわり、商品に込めた思いを聞きました。

長嶺さんが、活動の要として取り組んでいるのが、バスケットをモチーフとしたお土産作りです。「着任当初、バスケットで能代を盛り上げるために何ができるのかとても悩みました。そこで思いついたのが、新たなお土産作り。バスケットをモチーフにしたお土産をきっかけに能代に来る人が増えれば、地域の活性化につながると思えました」（長嶺さん）。

初めに取り組んだのが、商品作りと委託販売を行う店舗の確保でした。バスケットの街づくり市民チャレンジャー事業補助金の交付が決定した昨年12月に開始。今年の3月までに一定の成果を報告しなければならず、スケジュールはかなりタイトだったといいます。「3月の報告までに『どうしたら形にできるか』を常に考え、話し合いを重ねてとにかく実行しました」というのは、お

土産作りの中心メンバーとして長嶺さんをサポートする、市民活動支援センターの竹内優理奈さん。「初チャレンジャーの商品企画で時間も限られている中、クッキーという形になるまでに長嶺さんは本当に頑張っていたなど、いつも横で見えて思っていました」と振り返ります。

最初の試作品は別のスイーツ

今回、商品作りと委託販売を請け負うことになったのが cafe&asobida 4-09 です。長嶺さんが大好きなお店の一つで、店長の湊光代さんの作るスイーツの大ファンだそうです。依頼を受けた湊さんは「店でもいろいろなお土産物を置いていますが、いつか自分で作ったものを置きたいと思っていたので、とてもいい話だと思いました」と快諾。今年1月、試作品作りがいよいよ始まりました。



カフェアンド アソビバ よんのろく
cafe & asobiba 4-6 店長

湊光代さん

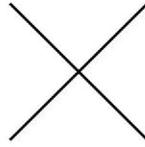
富山県出身。令和4年にオープンしたcafe&asobiba4-6の店長を務める。都内のカフェや菓子店、パン店での勤務経験を生かし、軽食やスイーツの調理・製造を担う。



地域おこし協力隊

長嶺薫さん

新潟県出身。令和5年11月に地域おこし協力隊の、バスケの街づくり担当に着任。能代バスケットミュージアムの来館者数増加などに取り組む。市バスケットボール協会員。



まずは、能代バスケットミュージアムの来館者の年齢や性別を分析し、商品のターゲットに絞ったのは20〜40代の女性。写真映えして、思わず手に取りたくなるスイーツを商品コンセプトに掲げました。

2月に試食会を実施。最初の試作品は、地元産サツマイモやナッツを使った月餅だったそうです。「表面にいろいろな模様を施せる点で試作したもの『買いたい』と思えるような見た目の華やかさが足りなかった」と湊さん。

そこで、華やかな見た目を求めて案が上がったのが、バスケットボールのような丸い形のクッキーでした。数日後には試作品が完成。カフェの仕入れでつながりのある地元店のさまざまな食材を使用し、生地だけでなく周りにまぶす粉糖にも加えて、カラフルな見た目を実現しました。

パッケージを考えて商品化へ

3月には、マルシェイベント「#Ohanaフェス」で一般の方向けの試食を実施。先日の能代カップでは、試作品の中から厳選し、檜山茶、ハマナス、味噌、ローズマリー

を初めて販売しました。

約3カ月で試作から販売まで行えたことに湊さんは「店の営業やギフト商品の用意などと重なって、正直時間的には厳しかった。でも長嶺さんが、大変な中でも試作品をいつも喜んで食べてくれた姿に救われました」とにっこり。

竹内さんは「デザイナーさんが先日決まりどんなパッケージになるのかとても楽しみ。大変なことはまだまだあると思うけれど、バスケットというパウンドを取って長嶺さんがいいシュートを打てるようにこれからもサポートしていきます」と話します。

能代カップで販売した4種類に能代産大豆のきな粉を加えた5種類の商品化に向けて、今後はパッケージデザイン製作に力を入れていくといえます。長嶺さんは「デザイナーや包装の仕方、販売価格など考えることはまだまだたくさんあるけれど、今はわくわくした気持ちでいっぱい。たくさんの方に関わってもらったので絶対に成功させたい」と力強く意気込みを話します。